



このページは読者の皆さんからの声にふれあう場です。いろいろな声をお寄せください。

父の死を心に刻んで生きよう

●河野浩泰さん

わたしの父、故河野泰義は、今年の3月20日に他界しました。満77歳でした。わが国の平均寿命からすると、7年くらい早い他界でした。

父は、わたしが日向学院高校時代の高校2年の3月に、脳血栓にて左手そして下半身不随となりました。わたしが学院高校2年の3月の中旬ごろに故河野員由（大工でした）から学院へ電話があり「浩泰、父ちゃんが谷村医院へ急に入院となったので、急いで申間に帰れよ」とのことでした。父は、昨年10月と今年2月の入院で少し体調も良くなり退院しましたが、今年

の3月14日（わたしの三女の誕生日）に再び入院、20日に他界しました。

よく、古人の言葉にある『いつまでも、あると思うな親と金』、これをわたしたち家族と親族は切に痛感しました。

告別式などに参加して下さった方々、本当にありがとうございました。父も天国でお礼を言っていると思います。

河野さん、お便りどうもありがとうございます。河野さんのお父さまに対する深い愛情が伝わるお便りでした。

あまりにも身近にいるとその存在の尊さに気付かないことが多いものです。親にしてもらうことのすべてが、『当然』ではないとい

うことを心にしっかりと刻みたいものです。 「ありがとう」の言葉は照れくさくてなかなか口にできないもの。ある人がこう言いました。「面と向かって感謝の言葉が言えないのなら、その人の後ろ姿に手を合せなさい」

教訓を生かし高台へ逃げよう

●百野達夫さん

世の中には、予期せぬことが起こり得るのだと実感した東日本の惨禍。りつぜんと衝撃を受けた。

被害は連日ふくれ上がり、死者・不明者は2万7、000人をオーバーした。被災者に心よりお見舞い申し上げます。

津波予測の技術は発達しているようだが、止めることはむずかしい。津波は自助主義で被害を減らすことができ、日ごろから備えることが大切である。

日向灘地震が想定されて

いるマグニチュード7.5の地震とすれば、高さ5メートルの津波が約10分で福島港へ到達すると言われている。

串間市は、今回の津波による避難勧告を約9、000人に出したが、避難した人は過小の316人だったという。

77キロの海岸線に集落が点在する串間市は人ごとなない。今回の津波の恐ろしさを教訓に、津波を伴うような大地震が起きた場合は「近場の高台」に逃げることにはしたい。

百野さん、いつもお便りありがとうございます。

本日に、東日本大震災のような災害は、全国どこにでも起こりうるのだということをお肝に銘じたと思います。

車を運転する際によくいわれる言葉に「きつと○○だろう運転」と「もしかすると○○かもしれない運転」があります。

前者は「きつと大丈夫だろう」という楽観的な気構えに対し、後者は「もしかすると○○が起こるかもしれない」と危機を予測す

る気構えのことです。

地震やその他の災害についても同様のことが言えるのではないのでしょうか。

「わがまちには、きつと起こり得ないだろう」という意識ではなく、「いつか起こるかもしれない」という意識を持ちたいものです。

わが串間市からも、先の東日本大震災の被災地である宮城県気仙沼市に職員が派遣されました。現地です支援助活動に従事し、多くのことを学び、気持ちを新たに帰ってくることを思います。

広報紙でもその活動報告を掲載し、市民の皆さんの「万への備え」へのお役に立てればと考えています。

春駒の詩

●松野修子さん

いまだ寒い折、毎日お仕事お疲れさまです。たびたび、市報に載せていただきありがとうございます。

毎日、テレビ、新聞にて暗いニュースの多い折、春駒の小さな命の誕生に思わず顔がほころび、感動にひたっています。毎月、春駒の誕生を何よりも待ちわび

るわたしがいます。

新聞での春駒親子のツーショット写真、ほほえましく飽きることなく見入ってしまった。そこで、つたない詩を書いてみました。よろしくお願いいたします。

松野さん、今月もお便りありがとうございます。

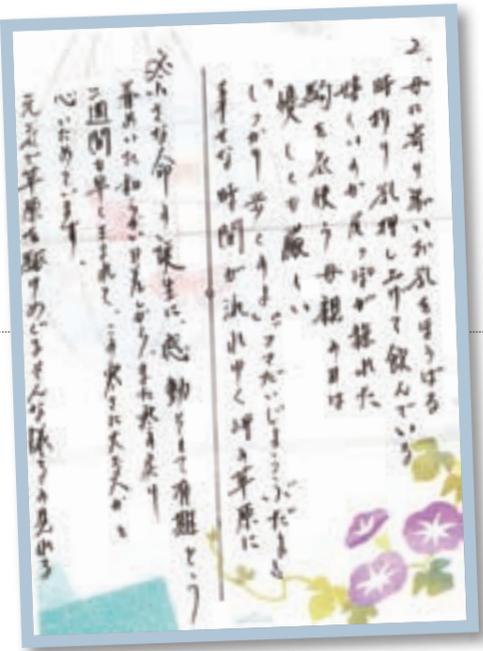
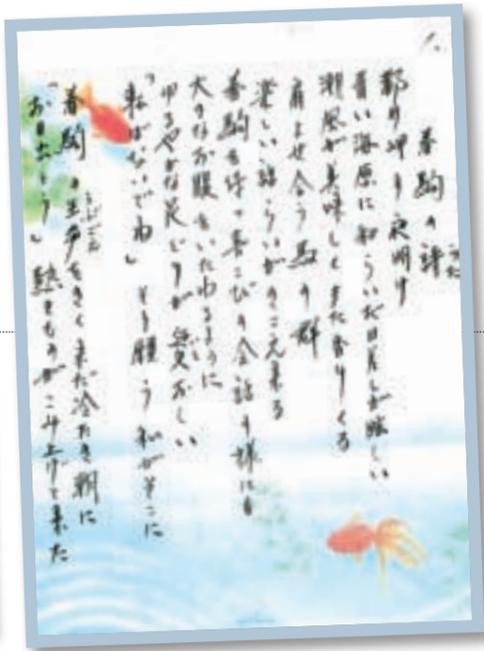
松野さんが詠んでくださった詩は『春駒の詩』。

とても美しい便せんに書いてくださったので、今回は写真（下段参照）で皆さんにご紹介したいと思えます。

最近では、パソコンなどの普及により『直筆の手紙』を目にする機会がぐっと減りました。そんな中、松野さんのお便りは筆ペンで書いて下さったので、どうか文字にとっても温かみを感じました。

松野さんは、日々書きながらいらっしやるのでしょね。ペンは、書き損じても鉛筆のように消すことができます。でも、書き損じても鉛筆のように消すことができませんから…（しかも縦書きはむずかしいです）。慌ただしい日常にひとときの安らぎを与えてくれるお便りでした。

松野修子さんからのお便り



「広報くしま」では皆さんからのお便りをお待ちしています。楽しかったこと、悲しかったこと、何でも結構です。

ワンショットスマイル、

スローフード・スローライフコーナーに出ただけかた、随想コーナーに寄稿していただけるかたも持ちしています。自薦・他薦は問いません。

おたより待っています

◎この広報紙を読んだ感想や今後取り上げてほしい記事、医療講座に関する質問、串間市への思い、あなたの身近な出来事、何でも好きなことを書いてください。

↓点線に沿って切り取ってください。（官製はがきでも可）

市民憲章

- わたしたちは、
1. 豊かな自然を大切に、これをいかしましょう。
 1. お互いを信じ、心をあわせ、平和で明るいまちをつくりましょう。
 1. 健康で働くことに誇りを持ち、豊かな住みよいまちをつくりましょう。
 1. だれにも親切にし老人をいたわり、子どもに夢と、しあわせをあたえましょう。
 1. 教養を高め文化のまちをつくりましょう。

◎市の木／そてつ ◎市の花／かんな
◎市の鳥／めじろ ◎市の花木／山桜
◎人口 20,113人（前月比 -46）
男 9,240人 女 10,873人
世帯数 8,763世帯

（平成23年5月1日現在）